

反貧困全国集会 2024 集会宣言

「搾取都市から包摂のまちへ！東アジアの現場から生きるための連帯へ！」

本日の集会には、貧困問題の現場で取組を続ける台湾、韓国、日本の生活困窮者支援団体が集い、非正規雇用、女性の貧困、居住の貧困と医療支援などの現状や取組内容などについて共有し、交流しました。日本では、反貧困ネットワークへのSOSは後を絶たず、幅広い年代の人から、所持金が尽きた、食べるものがないなどの相談が続き、問題が複合化しています。特に非正規雇用、女性、外国人などの状況は深刻で、政府のコロナ支援策の終了や物価高が追い打ちをかけ、事業が立ちゆかない自営業者や住居喪失の危機にある人が相次いでいます。台湾や韓国でも、女性、ひとり親、単身高齢者、若年層など脆弱層を中心に貧困問題が深刻化しており、生活の基盤である住まいを脅かされている人が多いことなど、日本と同様の状況にあることがわかりました。

韓国でも、共同体や安全網が崩壊し、競争社会の中で貧困と格差が広がり、様々な社会問題が増加しており、これは「構造」の問題であるとの報告がありました。日本でも、自己責任、市場原理、規制緩和、小さな政府・民営化などを重視する新自由主義が力を持ち、1990年代以降、低賃金で不安定な働き方である非正規雇用への置き換えが進められるとともに、医療・介護、年金、生活保護など幅広い分野で社会保障の削減が進められ、容易く貧困に陥る社会構造が作られています。新自由主義は、日本だけでなく、今や世界を席卷し、食料、エネルギー、医療・介護・保育・教育といった人間が尊厳を持って生きていくために必要不可欠なものまで市場原理に取り込み、競争重視の弱肉強食の社会を作り、一部の大企業や富裕層への富の集中、低所得層の拡大をもたらし、人々の連帯を破壊して分断と対立を深刻化させています。新型コロナウイルスによるパンデミックは、国境を越えてグローバルに拡大し、各国の貧困層を直撃しましたが、今後も、世界的な感染症や気候危機による大災害が襲来し、一層深刻な事態となる可能性があります。

ヨーロッパでは、新自由主義に対する戦略的な対抗手段として「ミュニシパリズム」が成長しています。国家主義や中央政府によって人種、公共財、民主主義が脅かされている状況に対し、地域で住民が直接参加して合理的な未来を検討する実践によって、自由や市民権を公的空間に拡大しようとする運動であり、社会的権利、公共財（コモンズ）の保護、フェミニズム、格差や不平等の是正、民主主義などを共通の価値として、地域、自治、市民主導、対等な関係性、市民の政治参加を尊重する実践であり、新自由主義に対抗するために、各国の地域都市や市民同士の国際的な連携・連帯が重視されています。

私たちは、今日の集会で、日本、台湾、韓国それぞれの現場で、アウトリーチ、住まいの確保・医療へのつなぎ・居場所作りなどの包括的支援、当事者主体の運動、医療者との連携など、創意工夫した市民による草の根の取組が、地域の現場で、国は違っても、同じように、粘り強く続けられていることを共有し、勇気と希望を分かち合うことができました。私たちは、「愛を込めて小さなことをすることはできる。」。私たちは、地域から、当事者・仲間とつながり、連帯・参加・協働と学習を積み重ね、搾取する都市ではなく、包摂のまちを創るとともに、新自由主義に対抗し、誰もが人間らしく生きる権利を実現するため、国境を越えて、日本、台湾、韓国の反貧困運動の連携・連帯を深め、声を上げ、行動することを宣言します。

2024年4月7日

反貧困全国集会2024参加者一同